

ライフステージ別～ネット社会との向き合い方～

インターネット、SNSを安全に利用するには、ネットリテラシーが大切です。特に幼児や小中学生は、保護者や周りの大人の見守りも大切ですので、スマホを適切に利用するために保護者が声かけをしましょう。

幼 児

仕事や家事に追われる中で、やむを得ず子どもにスマホを手渡し、結果として長時間利用させてしまうケースが見られます。しかし、スマホを長時間利用することは、健康への悪影響だけでなく、健全な発育を妨げる恐れがあるため注意が必要です。

動画視聴・ゲーム

幼児期の子どもに長時間にわたり動画視聴させることは、脳の発達を遅らせ、コミュニケーション能力に悪い影響を与え、無制限にオンラインゲームなどをすることは、生活習慣や情緒面に悪い影響を与える可能性が指摘されています。日常生活において右記のような事例が常態化していないか、改めて確認しましょう。

事例

- ・スマホで動画視聴やオンラインゲームを長時間させている。
 - ・スマホを取り上げると暴れたり反発したりして、自身の感情をコントロールできない。
- ◀未就学児の保護者向け
上手にネットと付き合いおう！
【出典 総務省ホームページ】



小中高生

SNSを通じて、いじめにつながる書き込みや不適切な画像や動画をアップロードした結果、事件に発展するケースが見られます。こうしたリスクから子どもを守るため、保護者は改めてSNSの利用状況や注意点を確認することが重要です。文部科学省の「情報モラル教育ポータルサイト」では、さまざまな事例を用いた動画が公開されています。この中から、4つを抜粋して紹介しますのでご覧ください。

動画の主な内容

- ・仲間内で共有した写真がインターネット上で拡散され、削除できなくなった。
- ・SNSに匿名で偽情報や誹謗中傷を書き込んだ結果、インターネット上で発信元を特定され、自身の個人情報を掲載された。
- ・他人になりすまし、SNSに同級生の悪口を書き込み続けた結果、訴訟を起こされた。



◀写真や動画が流出する怖さを知ろう(本編3分23秒)



◀思ったままSNSに送信しただけなのに(本編7分34秒)



◀SNSへの書き込みの影響(本編4分11秒)



◀いじめ未然防止啓発動画「その時、娘は」編(1分12秒)

成 人

成人を狙った詐欺被害が多発しています。SNSを悪用したフィッシング詐欺や偽広告、SNS型投資・ロマンス詐欺などさまざまな形態があり、アカウントの乗っ取りや金銭を要求されるなど、手口が巧妙化しています。「自分は大丈夫」と思わず、正しい知識を持ち、困ったときは警察や消費者センターなどの公的機関に相談し、解決することも必要です。

詐欺・偽広告

実在する企業などをかたり、偽広告などで偽サイトに誘導し、IDやパスワード情報を盗むほか、ウイルス感染させるケースが目立ちます。また、主にSNSを起点に架空の投資話を持ちかける、恋愛感情を装い金銭などをだまし取る詐欺被害が発生しています。

事例

- ・公式アカウントを装ったなりすましにだまされ、自身のアカウントを乗っ取られた。
- ・偽広告から偽サイトに誘導され、アカウントを乗っ取られた。
- ・著名人を装った無料投資セミナーに参加した結果、言葉巧みにだまされ金銭を振り込んだ。

幼児から大人まで!! インターネット・SNSを安全に使うために

新年度が始まって1カ月が経過しました。進学や就職、異動などによる生活環境の変化に伴い、スマートフォンやタブレット、パソコンなどを購入し、インターネットを利用する場面が増えた方も多いのではないのでしょうか。今月は、ネットリテラシーなどについてお知らせします。

【問合先】

- ▶小中学生とその保護者
学務課学校教育係(20番窓口/☎26-2332)
- ▶幼児、高校生とその保護者
健康・子ども課(11番窓口/☎26-2609)
- ▶上記を除く市民
総務課デジタル推進係(☎26-2711)



ネットリテラシーとは・・・

インターネット上の情報などを正しく理解し、適切に判断・運用できる能力のことです。

ネットリテラシーが低いと、インターネット上のトラブルに巻き込まれる可能性や情報漏えいのリスクが高まります。

スマートフォン(スマホ)などのインターネットに接続できる機器は、世代を問わず生活に欠かすことのできないものとなっています。連絡、買い物、仕事、学習、娯楽インターネットは暮らしを便利にし、社会を支える基盤であり、誰もが容易に情報を受け取り、発信できる環境を実現しています。

一方で、使い方を誤れば、思いがけないトラブルや被害につながる恐れがあり、意図せず他者に危害を加えてしまう場合もあります。長時間利用による健康への影響や、偽情報・誹謗中傷、詐欺被害、個人情報流出、さらには一度公開された情報が半永久的に残る問題などは、深刻な社会問題となっています。

年齢や経験にかかわらず、一人一人がインターネットとの向き合い方を見直す必要があります。

ネット社会が抱える光と影

親子で確認～利用の際に取り組みたいこと～

子どもに端末を持たせる以上、保護者には正しい使い方を教える責任があります。子どものスマホの利用を見守り、適切に指導ができるのは保護者です。

適切な利用に際しては、親子で十分に話し合い、ルールを決めることが重要です。ルールは一方的に押し付けても反発を招きます。可能であればスマホを持たせる前に決めましょう。

現代社会において、スマホを使わずに生活することは難しいからこそ、家庭でネットリテラシーの重要性を確認し、子どもが安全に、そして適切に活用できる力を育てていくことが求められます。

保護者は正しい使い方を確認しましょう

- ・利用時間や場所、目的、方法などについて、親子で話し合いルールを決め、年齢の変化や交友関係を考慮し、定期的に見直しましょう。
- ・ルールが守れなかった場合の対応をあらかじめ定め、守れなかった場合は理由や状況を確認しましょう。
- ・一方的にルールを変更するのはやめましょう。
- ・やってはいけないことを明確にし、指導しましょう。
- ・子どもへ定期的に声かけをし、利用状況を確認しましょう。
- ・SNSなどの情報をうのみにしないよう伝えましょう。
- ・有害サイトへのアクセスを制限するフィルタリング設定や、親が利用時間などを制限・管理するペアレントコントロール機能を活用しましょう。

ルールの一例

- ・1日1時間、夜9時以降は使用しない
- ・勉強中や食事中は使用しない
- ・「ながらスマホ」はしない
- ・リビングなど、保護者の目の届くところで使用する
- ・アプリのダウンロードは保護者に確認する
- ・個人情報、画像・動画は発信しない
- ・困ったことがあれば、すぐに保護者に相談する
- ・課金や支払いは勝手にしない など

